

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272500786		
法人名	社会福祉法人楽晴会		
事業所名	グループホームはるが丘		
所在地	青森県上北郡六戸町犬落瀬字堀切沢59-54		
自己評価作成日	平成22年12月29日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>開所当時のご利用者様(3名)が今も元気に生活されています。</p>
--------------------------------------

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>町の中心から離れた所に位置しているものの、なじみの地域住民との交流の場として、同敷地内の通所利用時に交流できるように配慮している。また、運営推進会議参加者と地域協力員が同じメンバーであり、2ヶ月ごとに避難訓練を実施し、共同で支えあう体制できている。高い天井からやわらかい光が入り込み、家具や戸など木のぬくもりが感じられる居間に集い、好きな音楽を聴くなどし、ゆったりとおだやかに生活を楽しんでいる様子が窺われた。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成23年1月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会福祉法人楽晴会の「社是・経営理念・品質方針」を明らかにし、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所独自の理念がある。毎朝唱和をして職員間で共有され、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な付き合いができるように努めている。また、併設施設内の交流は日常的に行っている。	雪かきをしながら声を掛け合ったり、近所の方に運営推進委員をお願いしているので、日常的に交流できている。同敷地内のデイサービス利用者となじみの交流ができるように配慮している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者はキャラバンメイトになっており、地域の認知症普及活動に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所の報告が主となり、運営推進委員からの意見の反映が少なく、サービスの向上に活かされていないのが現状である。	2ヶ月ごとに地域協力員の協力で避難訓練を実施し、同メンバーである、運営推進委員で会議をしているため、訓練についての意見をいただき改善につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町村主体の連絡協議会や懇親会等に参加し、運営や現場の実情等を伝える機会を作っています。	町主催の研修会に参加し、介護保険の動向などの情報を得たり、更新手続きなどの相談をしたり、事業所の実情を積極的に伝えるなど密に連絡ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送り等で、その日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われていなか等を点検している。	毎年研修を行い、理解を深めている。玄関に鈴をつけるなどして、鍵をかけない工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での勉強会やミーティング等を実施して、理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際の対応は管理者が行っているため、全職員の理解が不足している。定期的に勉強会を開催し、研修の場を増やすことで、職員の理解を深める取り組みをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約をする際は、ご利用者やご家族等の不安や疑問点を確認しながら、十分な説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には、ご利用者の健康状態や日々の暮らしぶりについて必ず報告している。また、事業所便りや個々に応じた報告を随時行っている。	入居時の説明や、面会時等に毎月オンブズマンの訪問があり、意見や要望を表せることを伝えている。出された意見や要望は運営に反映させる体制ができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会を実施して、職員からの意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心掛け、問い掛けたり、聞き出ししたりするようにしている。	朝の申し送り時や会議で話し合ったことを、管理者が代表者に伝える体制ができており、業務改善にも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ご利用者の自由な暮らしを出来る限り支えられるように、ご利用者の状態やペースに合わせた勤務形態となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修は年間計画を立てて実施している。外部研修があった時は必ず伝達報告を行い、情報の共有化を図っている。報告書は職員が自由に閲覧できる状態になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの見学や相互研修会での事例検討等を通して、事業所外の人材の意見交換や経験を活かし、質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった場合は必ずご本人に会って心身の状態やご本人の想いに向き合い、職員がご本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていることや不安なこと、要望等を傾聴しながら、安心して施設に預けることができるように時間をかけて説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでのご家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり話を聞くようにしている。話を聞くことで、相談者は落ち着きを取り戻し、次の段階へと必要な支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、お互いが協働しながら、穏やかな生活ができるように場面作りや声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の想いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、ご本人と一緒に支えるためにご家族と同じような想いで支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用されている理髪店に行き続けているご利用者があり、一人ひとりの生活習慣を尊重したり、また、馴染みの知人・友人等の継続的な交流ができるように働きかけている。	通いなれている馴染みの理髪店を継続して利用できるように支援したり、通所サービス利用の友人と交流できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶会や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、役割活動等を通してご利用者同士の関係が円滑になるような働き掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域密着型サービスとして、サービス利用機関のみの関わりではなく、終了後も継続的な関わりを必要とするご利用者やご家族には、関係を立ち切らない付き合いができるように心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度のご利用者が多いため、ご家族や関係者から情報を得て職員間で検討している。センター方式シートを活用しながら、ご本人がよりよく暮らしていくための課題を明らかにしている。	センター方式シートを活用し、意向の把握に努めている。重度の方の意向については、家族や関係者からの情報を得て職員間で検討し、本人のよりよい生活の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのご利用者について、その人独自の生活歴やライフスタイル、個性や価値観等を把握するようにご家族や関係者等から聞き取りを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、生活・心理面の視点や、できないことより出来ることに注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	本人、家族から事前に意向の確認をして、6ヶ月ごとにモニタリングをし、職員全員で意見交換を行い介護計画につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、日々の暮らしの様子やご本人の言葉、エピソード等を記録し、職員間で情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援を柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者が安心して地域で暮らし続けられるように、警察や民生委員との接点を持ちながら、資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院はご本人の希望に応じて対応している。基本的にはご家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が付き添い代行をしている。	通院は家族同行としているが、家族の都合により、病院で待ち合わせをして受診できるようにする等、本人及び家族の希望にそった支援ができています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じエリア内の看護職員と、日頃の健康管理や医療面において連携をとりながら、相談・助言・対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻りに職員が見舞うようにしている。また、ご家族とも情報交換しながら回復状況等を報告し、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の気持ちを大切にしつつ、ご家族と話し合いご利用者が安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる。急変した場合は、すぐに対応していただけるよう各医療機関とも密に連携を図り、対応している。	終末期に向けての事業所の方針ができています。本人、家族の希望により、終末期に向けての取り組みをしており、主治医との連携を密に図りながら支援できています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を実施し、全ての職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の協力を得ながら避難訓練を実施し、避難経路の確認や消火器の使用方法等を定期的に訓練している。	2ヶ月ごとに地域住民の協力で、消火方法や避難経路の確認等、火災想定で訓練を行い、地域と職員の協力体制を築いている。	起こりうるいろいろな災害(停電等)についても想定し、より安全でより安心な対策についての取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティング時に職員の意識向上を図ると共に、日々の関わりについても職員間で振り返り、ご利用者の尊厳、個別情報の保護に努めている。	勉強会やミーティングで、日々のかかわりについての振り返りをし、尊厳・誇り・プライバシーについての職員の意識の向上に努めている。個人情報の管理への配慮もみられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はご利用者と過ごす時間を通して、ご利用者の希望、関心、嗜好を見極め、それを基に日常の中でご本人が選びやすい場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、時間を区切った過し方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時のご本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者一人ひとりの個性を大切に髪型や服装、おしゃれを支援している。また、不十分なところや整容の乱れをさりげなく介助する等の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けを行い、職員とご利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるように、雰囲気作り等に配慮している。	職員と一緒にテーブル拭きや食器の片付け等、一人ひとりのできることを、自発的におこなう環境ができています。職員も一緒に同じテーブルに座り、食事が楽しいものになるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接施設の栄養士が献立を作成し栄養バランスのとれた食事となっている。毎日水分補給に努めると共に、必要に応じて摂取量のチェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。ご利用者ができそうなところは自力でやっていただき、その後不完全な部分を職員がケアしている。夜間は毎晩入れ歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりのサインを観察しながら、時間や習慣を把握し、さりげなくトイレ誘導をすることで、排泄の失敗やおむつの使用を減らすことができている。	排泄チェック表を利用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。散歩やラジオ体操、家事活動等身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴を拒むご利用者に対して、言葉掛けや対応の工夫、チームプレイ等によって、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。	入浴を楽しむことが出来るように、入浴剤を入れる等の工夫をされている。また、好きな日に入浴できるように、毎日入浴が出来る体制がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動を多く持ち、生活リズムを整えるよう努めている。入眠できないご利用者には添寝をしたり、温かい飲み物を提供する等、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、全職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は職員がご利用者の名前を声に出して確認をし、職員2名で服薬の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮していただけるように、ご利用者の生活歴や楽しみごとを確認しながら支援を行っている。役割を終えた後には必ず感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じていただけるよう、心身の活性化を図るためにも、日常的に近隣の散歩や買い物支援を行っている。	好みの散歩コースや買い物等一人ひとりの希望にそって支援している。家族や地域の人々と協力しながら、墓参りやなじみの理髪店に出かけられるように支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、ご利用者がお金を持つことの大切さを十分に理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や大切な人にご利用者自らが自由に電話を掛けられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音やご飯の炊ける匂い、心地良い音楽等、五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。	居間の天井が高く、そこからやわらかい光が差し込み明るい。また、扉や家具等、木のぬもりが感じられる。利用者はソファ等思い思いの場所でゆったりと過ごされており、居心地良く暮らせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で他利用者の方の気配を感じながらも、一人で過せる居場所作りの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日常品が部屋にあることで、ご利用者が居心地よく過ごせるように工夫、配慮をしている。	家族の写真を飾ったり趣味の作品を置いたり、使い慣れた手鏡・家具等持ち込まれており、居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の身体機能に配慮して、浴室やトイレ等に手すりを設置し、安全確保と自立した生活が送れるように工夫している。		